

第6回 ショートレター入選作品

《最優秀賞》

タイトル 「おとうちゃんへ」

「その人と同じ目の高さになってみい。見えんかった景色も
違う景色も見えるかもしれん」おとうちゃんは世の中に色々な
高さの視線がある事を教えてくれた。今、私がそれを十三才の
息子に伝えています。



《優秀賞》

タイトル 「妻」

難聴の私に「聞こえなかったら目で見ればいいのよ」と、お嫁に来てくれた。そんな事を言ってくれる人は初めてだったので涙が出るほど嬉しかった。生きる希望が出て未来が明るくなった。四十八年前の事だよね。

コメント 差別のない妻の言葉を48年間ずっと感謝の気持ちでもっておられることに感動いたしました。

《優秀賞》

タイトル 「娘（のんちゃん）へ」

眼の不自由な私が娘を毎日幼稚園へ娘を迎えに行く。帰りは私が小さな手にひかれ畦道を帰る。「どっちの迎えかわからないね」と笑いながら帰る道のり、時間、小さな手がたまらなく愛おしい。「ありがとう」

コメント 幼い子どもに対する愛しさ、頼もしさが伝わってきました。

《佳作》

タイトル 「おばあちゃん」

おばあちゃんは、日本人でした。だけど、隣に住んでいたおばあちゃんは韓国人でした。僕が小さいとき、僕にとってはどちらもおばあちゃんでした。今は、日本人のおばあちゃんと、韓国人のおばあちゃんです。

コメント 人を思う気持ちに日本人も外国人も関係ない気持ちは、小さい時も大人になっても同じであるという思いが伝わってきました。

《佳作》

タイトル 「父親」

韓国人として日本へ渡って来て、丁度半世紀が経ちましたね。その間、何も言わず。何も愚痴らずただひたすら家族の為に働いて来たお父さんの事を、今になってようやく理解出来るようになったことを許して下さい。

《佳作》

タイトル 「ありがとうな。」

泣き虫な私は、ある日友達からある一言を言われ、弱い私から『強い私』に変わったのです。「うちにあんたの味方やから。泣いてばかりじゃなくて、笑顔でうちに話しかけて。」この言葉で強くなってん。ありがとうな。

《佳作》

タイトル 「親父へ」

親父、おふくろが亡くなってから元気がないね。「母さんのことは忘れたよ」だなんて言ってるけど、私が母さんに会いに行くと、いつも新しい花が供えてあるんだ。それ、親父だろ。おふくろの分まで親孝行するからね。

《佳作》

タイトル 「母へ」

産んでくれてありがとう。人とは少し違う体だけど。足が曲がっているけれど。歌えるよ、走れるよ、笑えるよ。だからボクは幸せだよ。

《審査員特別賞》

タイトル 「難病と闘っている親友へ」

君が病で苦しんでいる時は、僕が点滴になろう。君が食べたい物も食べられない時は、僕も食べたい物を我慢しよう。君が沢山薬を飲まなきゃならない時は、僕が水になろう。そして、君が退院したら、僕が君の翼になろう。

コメント 文章の表し方が素晴らしい。

《審査員特別賞》

タイトル 「祖母へ」

「寝たきりになってしまったおばあちゃんのベッドの上を、ひ孫がはいはいして、にっこり、おばあちゃんもにっこり。それをみて、みんなもにっこり。2人の笑顔がパワーになる。」

《入賞》

タイトル 「九十歳で失明した母」

波の音や、鷗の鳴き声、そして、地引網を引く掛け声など、お母さんが育った、九十九里浜の懐かしい、海の音を録音したテープを送りますので、これを聞きながら楽しかった子供時代を思い出して下さい。

《入賞》

タイトル 「お婆ちゃん」

「16で親の決めた相手と結婚して30で夫に先立たれ、女手一つで父を育てたお婆ちゃん。もういいよ、気にすることない。恋をしてもだれも怒らない。イキイキと輝く目をしたお婆ちゃんを私は応援したいんだ。」

《入賞》

タイトル 「友へ」

涙を流せば君がいた。一人じゃないよって言ってくれた。私のために涙を流してくれた君に、ありがとう。言葉だけじゃ伝えきれない程の感謝を一生かかって伝えるから、おばあちゃんになっても、よろしくネ。

《入賞》

タイトル 「お母さんへ」

いつもいつも怒らしてばかりでごめんなさい。私が幼いころにお母さんが言ってくれた言葉が今でも心に残っています。その言葉は、「お母さんが怒るのはあんたが好きやからやねんで。」私はそんな優しい母が大好きです。

《入賞》

タイトル 「認知症の祖母に」

なあばあちゃん、認知症で毎朝『行かなくちゃ』って向かった先、今度コッソリ教えてよ。仏壇のノート見ちゃった。『子供達に迷惑をかけず元気で長生きしたい』・・・私、泣いちゃった。大丈夫だよ、忘れていいよ。

《入賞》

タイトル 「おじいちゃん」

おじいちゃん、戦争から生きて帰ってくるのは情けなかったですか？軽蔑されましたか？私には、お国よりおじいちゃんが大切です。おじいちゃん、生きて帰ってくれてありがとう。今日も笑ってくれてありがとう。

《入賞》

タイトル 「小学四年生の孫」

ばあちゃんは、いつも明るく若々しく、にこにこしていた、僕の自慢ですと書かれた、誕生日の手紙。つらい時、苦しい時に取り出して読んでます。いつまでも、君の自慢のばあちゃんであってほしいね。

《入賞》

タイトル 「姉」

先日、病院で母の最後を看取った折、姉上が泣いていた私の女房の手をとって声をかけてくれたことに感謝します。女房が外国人である障壁を越えて、やっと元の仲のよい姉弟に戻れたのは、やはり母の力だったようです。

コメント 母の命と長い間の人種の壁を越えた、というつながりに感動をおぼえました。

《入賞》

タイトル 「2人の子供」

ひとにいやなことされたらうれしくないでしょう？みんな、おなじだよ。いやなことは、いやってちゃんとよいえるように。そして、じぶんもひとにいやなことをしないように。それが、だいじなんだよ。

《入賞》

タイトル 「娘へ」

あなたはママがお年寄りや体の不自由な人にとっさに手を貸してしまうことを「趣味でしょ」と笑うけれど、ママはちゃんと知ってるよ。あなたも困っている人を放っておけないこと。似ていてくれて、ありがとう。

《 入 選 》

タイトル 「おばあちゃん」

若い男の子から「ババア」といわれて泣いていたおばあちゃん。おばあちゃんも若いころはきれいなお姉さんだった。その男の子も年を取れば「ジジイ」なんていわれて泣くかもしれない。僕は人をけなしたりしないよ。

《 入 選 》

タイトル 「お兄ちゃんへ」

お兄ちゃんいつも勉強を教えたりキャッチボールをしてくれてありがとう。ぼくは、そんなお兄ちゃんを目標にしています。だからお兄ちゃんのような人にぼくは、なりたいです。

《 入 選 》

タイトル 「自分の皮膚へ」

アトピーで皮膚にボツボツがあるだけで、いじめやいろんな苦勞をしてきたね。皮膚がみんなと違うだけなのに・・・でも、それを乗り越えてるから、人の痛みもよくわかるんだよ。だから、感謝しなくちゃね。

《入選》

タイトル 「妻」

これからも重い障害を負った君を車椅子で外出させるよ。無益無用な厄介者扱いする世間は世間。人間としてかけがえない尊厳を持っている以上、社会に出て臆することなく堂々と生きる喜びを満喫しようよ。

《入選》

タイトル 「お母さんへ」

血の繋がらない私を育ててくれて、感謝です。子供達を抱きしめる時、あなたの偉大さを感じます。心配ばかりかけてた娘は、今は子育て楽しんでます。今度温泉に連れて行くよ。また笑い話しよう、お母さん。

《入選》

タイトル 「恋人へ」

思いつめた表情で自分のルーツのことを話してくれてありがとう。どんなことがあっても君を大切に思う僕の気持ちは変わらないよ。新婚旅行の行き先は済州島がいいな。これからは君と僕の二人の故郷となる所だから。

《入選》

タイトル 「妹へ」

妹が結婚する相手は外国人、父親も母親も猛反対したが、彼の誠実さと熱意に根負けした。妹が幸せになれるのなら、相手は外国人でも構わないと思った。

《入選》

タイトル 「父さんへ」

父さん。九十歳を超えた。まだ長生きして。父さん。姉、兄、俺の三人を連れたブスの母さんとよく結婚してくれた。その後、弟、妹五人が生まれ計八人も育ててくれた。苦労は絶えなかったが、不平不満は言わなかったね。

《入選》

タイトル 「母へ」

今年八十歳になった母さんと二人きりで旅行するの初めてじゃないか。なのに差し歯が取れたから「大した旅行じゃないから行かない」はないだろう！？俺怒鳴ったけどすぐに大笑い。出発は三日後だよ歯医者さん、行こ。

《入選》

タイトル 「あたし（14歳の娘）へ」

だってさ、勉強できなくても、走んの遅くても性格良くななくても自分じゃん！世界にひとりだよ。唯一無二のあたしなんだから。欠点なんて直せばいいよ。大切なのはあたしでいることだよ。生きていこう、頑張ってさ。

《入選》

タイトル 「宝物の孫へ」

今のまま心の温かい人であれ。己に厳しく、他者には優しさと思いやりだ。暴力や差別や暴言で受けた心の傷は永遠に癒やされないものだ。そして、己の人生に後悔のないよう冷静に考えて行動されたし。ばあばより

《入選》

タイトル 「育児中の娘に」

隣の子どもの発育が「見本」じゃない。よちよち歩きをした。言葉を覚えた。赤ん坊も、一人ひとり違っていいんじゃないか。

《入選》

タイトル 「結婚を悩む息子へ」

何を悩んでいる。結婚したい相手の家柄。親戚つきあい。何に囚われている。周りのことより、お前と相手、二人自身が何より問題だ。

《入選》

タイトル 「祖父（5年前に他界）」

そっちの生活慣れた？もう5年だけど私は、毎朝、晩、お経あげてるよ。あなたの為に覚えたんだよ。急に倒れるなんて信じられないけど、いつも見守ってくれてる気がする。おじいちゃんの分まで頑張るよ。

《入選》

タイトル 「生きる」

終戦から6・2年。私達は戦後に生まれ戦争の血生臭さを知らない。遺された記録に涙が出る。旅立つ息子を見送る母の気持ちは？阻止できぬ時代とは言え大空へ散った兵士達に権利主張できなかったのかと私は思う。

《 入 選 》

タイトル 「知覧」

権利を得る為のくだらない戦争で犠牲になった戦死者に人権はなかったに等しい。知覧特攻隊の数知れない若者は祖国の為、家族の為に大空へと散った兵士に権利もない。権利主張ができるのは命あるからこそできるのだ。

《 入 選 》

タイトル 「妹へ」

二十年間の介護生活、ご苦労さまでした。たとえ夫といえど、あまりにも永い月日は時として逃げ出したくなったと思う。でも「私が居なければ・・・」の一念こそ無償の愛だ。情薄き社会にあって私は君を誇りに思う。

《 入 選 》

タイトル 「おばあちゃんへ」

祖母の車椅子を押していました。人々の好奇、憐れみの視線が突き刺さりました。祖母はずっと下を向いていました。おばあちゃん、車椅子が堂々と差別されずに歩けるそんな世の中にしていくからね。

《 入 選 》

タイトル 「小学校の時の先生へ」

私はあなたが担任で最初はいやでした。毎日学校に行くのがいやでした。自分ではいいと思ってもおこられて毎日が最悪でした。しかしいま思うとあれだけ言われたからこそ、今、自分が事を進められるようになったと思う。

《 入 選 》

タイトル 「友達へ」

生きるってきつとつらいことなんだ・・・でもね『生きてる』って、きつとすごくすごく幸せなことなんじゃないかな？そのことを教えてくれたのはあなたでした。私に生きる勇気をくれてありがとう。